

第3学年「理科」学習指導案

授業者 草野 健

9月27日(火) 5校時 13:15~13:55

1 単元名 「音のふしぎ」

2 単元について

子どもたちは日常生活の中で音の性質を利用した様々な物を目にしている。音の大小の違いや高低の違いなどについて体感しており、音の性質を学習や生活の中で利用している。しかし、音を日常生活で可視化してみることはあまりなく、視覚的に実感しにくいという側面があると考えられる。

本単元では、まず音についての経験や考えを出し合うことで、仲間が音について考えていることを知り共有する。この活動から音について学習する見通しを持たせたい。そして、紙コップなどで糸電話を作成しながら音が出ている物に触らせたり、輪ゴムで作った楽器から音が出ていないときと音が出ている時の様子を観察したりすることで、音を出す物は振動していることをとらえさせる。次に生活の中で使われている音を出す物に目を向けさせたい。楽器、オルゴール、スピーカー、声、などがあると思われる。さらに、騒音計で音の大きさを数値で表し、視覚化したい。この活動の中で子どもたちの発見から、音の大きさと振動の様子の関係について、とらえられるようにしたい。

3 学習指導計画(全6時間 本時1/6)

第1次 音を出してみよう 2時間

第2次 音に触ろう、音を見よう 2時間

第3次 音が大きい時と音が小さい時 2時間

4 本時について

(1) 本時のねらい

音についての経験や考えを出し合うことで、音について学習する見通しを持ち、学習感想が書ける。

(2) 予想される本時の展開

主な学習活動と予想される子どもの姿	留意点
1 「音ってなんだ？」について考え、ノートに書いてみる。	○実際に楽器を使って音を出す様子を見せてから、音について想起させるようにしたい。
2 音について考えたことを出し合い、共有する。	○研究所の順番でどんどん考えたことを出させていく。黒板で可視化する。
3 実際に音を出してみる。	○輪ゴムを使って1人1つ簡単な道具を作って、手元で実際に音が出ている様子を観察させたい。
4 学習感想を書く。	○いつものように終了5分前を目安に振り返りの時間としたい。

□授業後の話し合いで話題にしたいこと

- ・単元の初めに経験や考えを出し合い、経験や考えを共有して学習の見通しを持つことについて。